

授業科目名	人間教育学ゼミナール（応用）(2100310)		
時間割名	人間教育学ゼミナール（応用）(15109)		
時間割担当	増井眞樹		
実施期	通年	単位数	4 必修 選択
曜日・時限	月・5		

授業の目標・概要

卒業研究に向けて論文や制作活動を行う。自らの専門分野についての研究をまとめ、形にすることによって、自らの人間教育学に関する学びの集大成とする。

十数年間の生活や学びの中から、自分の生き方・考え方を見つめなおし、これからの生き方・考え方の指針となるものについて考え、自分らしい生活、よりよい社会、持続可能な環境を創りだす資質を培う。

学習の到達目標

西洋・東洋の哲学者及びその時代に影響を与えた主な人物の功績を知る。

自分が共感する生き方・考え方の人物に焦点を当てて、資料収集する。

道德教育の内容項目とのかかわりについて分析する。

最終的に、自分自身がまとめたものが自分の考え方・生き方につながるような成果物を期待する。

授業方法・形式

メンバーを2～4名の小グループに組織する。

学生が主体的に、テーマを設定し、最終的成果物の形式を決定し、計画的に推進する。

関係書籍講読・資料を収集する。

中間発表会を設け、物の見方考え方を深める。

授業計画

第1回 ガイダンス、「人間教育ゼミナール」の意義と目標

第2回 研究テーマ設定と計画

第3回～第9回 書籍・資料の収集・分析・交流

第10回 中間発表と課題

第11回 課題解決に向けた修正案作成

第12回～第15回 書籍講読・資料の収集・分析・交流

第16回～26回 成果物の原稿作成

第27回～第29回 成果物の完成

第30回 まとめ

成績評価の基準

主体的な授業参加、計画推進、プレゼンテーション及び成果物等を総合的に評価する。

準備学習・復習及び授

第1回 研究テーマと計画に沿った資料収集計画

第2回 資料収集計画に沿って、書籍・資料の検索

第3回～第8回 書籍・資料の収集・分析・交流

第9回 中間発表の準備

第10回 中間発表で明らかになった課題に沿って再構築

第11回～15回 書籍講読・資料の収集・分析・交流

第16回～26回 成果物の原稿作成

第27回～第29回 成果物の完成

第30回 まとめ

履修上のアドバイス及

為せば成る。為さねば成らぬ。何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。

研究テーマを常に意識し、文献講読や資料収集に励む。

教材・教科書

必要に応じて指示する。

参考書

必要に応じて指示する。